

国際平和拠点ひろしま構想に関する知事訪米の主な成果

〔 日付表示は現地時間
組織名称は一部略称使用 〕

1 全体概要

- 8日間で延べ6都市を訪問
- 国連事務総長との会談など11回の会談
 - ・ 国連事務総長，シカゴ総領事館首席領事，藤崎駐米大使，兒玉国連大使，米国議会関係者，国家安全保障会議上級部長，国務省日本部長，アフガニスタン駐米大使，イラク及びアフガニスタン国連大使，米州機構対外関係局長，ホノルル県人会役員
- 4つの財団との協議
 - ・ マッカーサー，NTI，スコル，ヒューレット
- 4回の献花
 - ・ 広島市の平和記念公園，アリゾナ記念館，国立太平洋記念墓地，グラウンドゼロ
- 2回の記者会見と4回の個別インタビュー，国連でのビデオ収録
 - ・ ナショナルプレスクラブと国連での記者会見
 - ・ ダン・ラザー氏，ウォールストリート・ジャーナル紙，AFP通信，ワシントン・タイムズ紙
 - ・ 国連での，国連アンバサダーズ・クラブ会長（パキスタン元国連大使）からのインタビューのビデオ収録

2 国連・米国政府とのネットワークづくりを推進

国連やアメリカ政府関係者，日本大使館関係者等に対して，国際平和拠点ひろしま構想の説明を行い，構想への理解をいただくとともに，今後の取組みへの協力を依頼し，ネットワークづくりを進めた。

(1) 国連事務総長が，構想の全面支援を表明【11月9日（水）：ニューヨーク】

- ・ 潘基文（パンギムン）国連事務総長と会談，事務総長から，構想の具体化に向け，国連として，政治的な支援や知識面（専門家等）での支援を惜しまない，との全面的な支援を表明いただいた。
- ・ 広島が，平和に関する様々なイニシアティブや活動を手がけていることは認識しており，知事のイニシアティブを支援する。地域からの草の根のメッセージには力がある，核問題は，個人的に非常に思い入れのある問題であり，構想実現に向けた広島の具体的な計画・ロードマップを拝見するのを心待ちにしている，とのコメントをいただいた。

※ NPT運用検討会議の広島誘致について

事務総長に対して，広島市が同会議の広島開催を希望しており，日本政府から正式に要請があれば，是非とも協力をお願いしたい旨，要請した。

これに対し，事務総長からは，同会議が国連の外で開かれた前例はなく，運営面でも大変だと思う，また，この会議は，日本政府が要請する事柄である，日本政府と協議してほしいとの発言があった。

(2) 米国国家安全保障会議 大量破壊兵器テロ脅威削減担当上級部長が、構想を歓迎、今後の継続的な対話を表明【11月10日（木）：ワシントンD.C.】

- ・ ローラ・ホールゲート大量破壊兵器テロ脅威削減担当上級部長と会談し、構想は、非常に内容のあるもので、米政府のアジェンダと一致する、広島が地域として平和に関与し貢献するというアプローチを歓迎する、とのコメントをいただいた。
- ・ 同会議は、特に、核テロ問題に関心があり、広島は、核安全保障サミット（平成24年3月に韓国ソウルで第2回サミット開催予定）で役割が果たせるとするとの助言があった。
- ・ 同部長から、今後の継続的な対話を歓迎する、研究、訓練などの情報をお互いに共有していきたい、との意向が示された。

(3) 米国国務省日本部長が、構想へ関心を示し、特に、核問題、平和構築の人材育成への期待を表明【11月10日（木）：ワシントンD.C.】

- ・ 訪米中に、マーク・ナッパー日本部長から会談の申し入れがあり、構想について意見交換を行った。
- ・ 構想は、米政府の政策に合致しており、大変興味深い内容であると評価された。
- ・ 国務省としては、核問題と地域問題の双方に知識、経験のある人材を育成し、訓練することが課題であり、そのための交流・研修プログラムが必要だと考えているとのこと。また、平和構築に関しては、イラクやアフガニスタンなどの人材育成や教育が大きな課題であり、平和な社会構築のための訓練や研修が必要であるとの認識が示された。

3 構想実現に向けたプラットフォームづくりを推進 ～ 米国の財団等との協力関係を構築 ～

核兵器廃絶や平和構築に関する活動を行っている財団を訪問し、構想の説明を行い、今後の取組みについての意見交換を行うとともに、今後の取組みへの協力を依頼。各財団とも構想を評価し、今後の協力に前向きな姿勢を表明した。

(1) マッカーサー財団【11月7日（月）：シカゴ】

- ・ バリユー・ローウェンクロン副理事長等と会談。同氏には、構想は、核をめぐる世界情勢を踏まえた包括的な行動計画を盛り込んでおり、平和構築に向けた正しいアプローチとして評価いただいた。
- ・ また、同財団では、核の安全性への貢献を柱の一つとしており、同氏から、ラウンドテーブルなど、核問題への具体的な取組が示されれば、一緒に活動することも考えられ、今後も、構想の具体化の取組を注視したいとの意向が示された。
- ・ さらに、このような構想であれば、ヒューレット財団とも協議をするのがよいのではないかと助言をいただき、副理事長自ら、同財団との面会をアレンジいただいた。

(2) NTI 【11月10日（木）：ワシントンD.C.】

- ・ NTIのジョアン・ロルフイング会長等と会談。同氏から、意欲的な構想であると評価をいただいた。
- ・ また、NTIは、核脅威に焦点を当て、幅広い分野で多様な活動を行っており、お互いの共通部分での協力を期待したいとの意向が示された。さらに、広島が、原爆による破壊と復興の経験を活用して、プロジェクトを進めることは、興味深いアプローチであり、新しい展開につながる可能性があるとの考えも示された。
- ・ このほか、NTIから、次世代への教育・訓練、次世代のリーダーの育成が必要との認識が示された。

(3) スコル財団、ヒューレット財団 【11月11日（金）：パロアルト】

- ・ ジェフリー・スコルCEO等と会談。
- ・ 同氏からは、構想が、広島という象徴的な場所を拠点として、核廃絶のために独立した研究所を作ることや、さらに、原子爆弾による壊滅から復興した経験を、アフガニスタンのような紛争後の国の復興に役立てることを志向しており、この計画は、独自性が高いとの考えが示された。
- ・ 今後、中長期の具体的なロードマップが示されれば、財団としても何が一緒に出来るかを考えていけるだろうとの意向が示された。

4 メディアを通じた構想の世界発信【米国、フランス、中国、オーストラリア等で報道】

国連での記者会見や海外メディアによる単独インタビューなどにより、構想と国際平和へ取り組む広島の決意を広く世界へ発信した。

(1) 記者会見

ナショナルプレスクラブ（11月8日）及び国連（11月9日）で実施。

(2) 国連でのビデオインタビュー収録

国連内の施設において、国連アンバサダーズ・クラブ会長（パキスタン元国連大使）による湯崎知事への30分余にわたるインタビューを収録。今後、国連機関のウェブサイト等で公開される予定。

(3) 海外メディアによる単独インタビュー（主なインタビュー：4社）

（ハワイ・アリゾナ記念館：11月5日）

○ CBSの元アンカーマン、ダン・ラザー氏によるインタビュー

パール・ハーバー70周年のテレビ記念番組の収録の一環として、知事を単独インタビュー。今年、12月6日に全米で放送予定とのこと。

（ワシントンD.C.内ホテル：11月10日）

○ ウォール・ストリート・ジャーナル：ピーター・ビューロー記者

○ AFP：ロバート・リーバー記者

○ ワシントン・タイムズ：ベン・ビンバウム記者